

消防魂の火は消せない

第14回大津町消防団操法大会
第30回菊池郡消防操法大会



大津町消防団操法大会が7月4日、町運動公園で開催され、各分団から出場した選手たちが、日ごろの練習の成果を競いました。大会は実践と同じく水を出す小型ポンプ操法で競われ、選手たちは雨が多い期間中にもかかわらず訓練に励み、成果を十分に発揮しました。大会当日は朝から雨が降り、選手たちは雨に濡れながらも演技を披露しました。審査は菊池広域連合消防署員が規律やタイムなどを基準に採点を行いました。

優勝 第3分団第1班
第2位 第3分団第2班
第3位 第5分団第1班

そして、菊池郡消防操法大会が7月18日、菊陽杉並木公園スポーツ広場で行われ、大津町と菊陽町から選抜された計10チームが連日の練習の成果を發揮しました。審査の結果、小型ポンプの部は大津町消防団第3分団第2班が優勝し、ポンプ車の部で推薦された同本部とともに8月22日(日)に荒尾市で開かれる県大会に菊池郡代表として出場します。



上位の結果は次のとおり

優勝 第3分団第2班 (大津町)
第2位 第3分団第1班 (大津町)
第3位 第4分団第4班 (菊陽町)



1_ 雨の中、放水を開始する第1分団第1班平野卓己指揮者 2_ 郡大会で優勝した第3分団第2班と境第3分団長 3_ 濡れながら操法終了の報告を行う第3分団第2班清水徳昭指揮者 4_ 伸ばすホースの先には目指すべき火点 5_ 筒先の交代をする第2分団第2班田野雄一郎指揮者と國本俊幸1番員



えんぴつ一本でできる まちづくりへの参加 特集 国勢調査

今年为国勢調査の年です。国勢調査は、10月1日を基準日として実施され、日本にいるすべての人が対象になる非常に大きな調査です。一本のえんぴつがあれば調査票に記入ができるこの調査。今回は国勢調査について特集してみました。



明治12年、統計学者で太政官正院政表課大主記(現在の総務省統計局長)だった杉亨二が中心となり、甲斐国(現在の山梨県)で「甲斐国現在人別調」が行われました。これが現在の日本の国勢調査の原型となっています。すでに欧米では18世紀から国勢調査(人口センサス)が実施されていましたが、当時の日本では本格的な調査を行うことができていませんでした。

明治28年、国際団体である「国際統計協会」から日本政府に対して「1900年(明治33年)世界人口センサス」への参加の働きかけがあり、これをきっかけに国勢調査の実施の機運が高まることになりました。その後明治35年「国勢調査二関スル法律」が成立、公布されました。この法律に基づき、第1回の国勢調査を明治38年に実施することになりましたが、日露戦争(明治37年~38年)により、実施が見送られます。その後も第1次世界大戦の影響などにより、結果的に1回目の国勢調査は大正9年に実施されました。杉亨二も、明治43年に国勢調査準備委員会の委員に任命されるなど、統計の普及に力を尽くしましたが、国勢調査実施前の大正6年に亡くなってしまいました。

第1回の国勢調査は、計画から実施まで、長い年月が費やされました。実に「甲斐国現在人別調」から41年後、法律制定から18年後、アメリカ合衆国の第1回人口センサスから実に130年後に実施されたことになりました。ようやくセンサスに参加できることに「文明国への仲間入りができた」と国民も沸きました。

また当時では珍しいポスターも各地に貼られましたが、その文章をみると、国勢調査の目的、申告の方法、調査する事柄などを、いかに分かりやすく伝えるか、当時の担当者の苦心の跡がうかがえます。次の一文は、その文章です。

「国勢調査は社会の状況を明らかにする為に行ふので課税でも犯罪を探す為でもありません」

ふりがな付きの分かりやすい文章で、役人的でなくて良いとの評判だったそうです。

以後、国勢調査は5年ごとに行われ、日本の発展に役立ってきたのです。



第1回国勢調査のポスター